

# 福田富昭会長と日本レスリング協会の 18 年

(2017 年～2021 年)

## 2017 年

**【2月20日】** イランの女子レスリング関係者 5 人が来日。至学館大の練習を見学し、22 日には東京・味の素トレーニングセンターを見学。イランでの女子レスリングの振興に熱意を見せた。



▲イランから来た女子レスリング関係者

**【3月17日】** 世界レスリング連盟 (UWW) が、2018 年 1 月から階級数を各スタイル 10 階級とすることと、1 回戦～決勝を 2 日間で行うことを発表。2 日間試合はカデットの欧州&世界選手権で試験的に実施。具体的な階級区分は 8 月の理事会で決定予定。

**【4月6日】** 世界レスリング連盟 (UWW) が、2008 年北京オリンピックのドーピング再検査で 2 選手が失格となったことを受け、男子フリースタイル 60kg 級で銅メダルだった湯元健一選手の銀メダルへの繰り上げを発表。

**【6月9日】** 日本オリンピック委員会 (JOC) のスポーツ大賞・最優秀賞に伊調馨選手が選出され、受賞した。レスリングでは 2010 年度の吉田沙保里選手に続いて 2 人目

**【6月9日】** 国際オリンピック委員会 (IOC) が、2020 年東京オリンピックのレスリングの出場選手数を 3 スタイルで 288 選手と決定 (男子各スタイル 96 選手、女子 96 選手)。リオデジャネイロ大会の 344 選手から 56 選手も少なくなる“狭き門”となることが決まった

**【6月13日】** 世界レスリング連盟 (UWW) が、2020 年東京オリンピックでレスリングの選手数が 56 人減となったのは、2013 年の除外騒動の時に IOC との協定のひとつだったことを明らかにした。



▲日本男子 34 年ぶりの世界王者に輝いた文田健一郎

**【8月22日】** フランス・パリでの世界選手権・男子グレコローマン 59kg 級で文田健一郎が優勝。日本男子として 1983 年以来、34 年ぶりの世界王者が誕生。25 日には男子フリースタイル 57kg 級で高橋侑希が優勝。同スタイルでは 36 年ぶりの世界王者へ。

【8月24日】世界レスリング連盟（UWW）の理事会で、男女3スタイル各10階級の新階級区分と1回戦から決勝を2日間で実施することなどを正式決定。実施は2018年1月から。オリンピックは6階級のまゝ。

【9月15日】国際オリンピック委員会（IOC）の総会で、2024年パリ・オリンピックでリオデジャネイロ・オリンピックと同じ28競技の実施を決め、レスリングの実施も正式に決定。競技を入れ替えて活性化をはかるといふIOCの方針は2013年の1回限りで終わることになり、レスリングの実施は当面、安泰となった。

【9月22～24日】日本、韓国、中国の指導者を集めたアジア・コーチ・クリニックが東京・味の素トレーニングセンターで行われる。

## 2018年

【2月28日】週刊誌報道でパワハラ問題が浮上。以後、対応に追われる。

【3月17～18日】女子ワールドカップが群馬・高崎アリーナで行われ、日本は予選リーグを勝ち抜き、決勝で中国を6-4で破って4大会連続10度目の優勝。



▲ワールドカップ優勝で胴上げされる福田会長

【3月20～24日】世界レスリング連盟（UWW）主催の女子世界合宿が、モンゴルを除くワールドカップ出場国を含めて20ヶ国から約150選手が参加し、東京・味の素トレーニングセンターで開催される。過去の世界合宿は日本協会主催だったが、UWW主催では初。

【4月6日】協会が設置した第三者委員会の調査の結果、告発状での指摘はすべて「パワハラではない」としたが、調査の過程で浮かび上がった4点がパワハラと認定され、福田会長以下の執行部は、真摯な姿勢での改革を宣言した。（告発された会計に関しては、のちに「改善すべき点はある」としながら、不正経理はなかったことが認められた）



▲20ヶ国が参加しての女子世界合宿

【6月19日】内閣府の公益認定等委員会が、本協会が5月31日に提出した再発防止策などの報告書を公表し、「改善のための取り組みを進める方向が示されている」と一定の評価。

【10月22日】ハンガリー・ブダペストで行われた世界選手権の男子フリースタイル65kg級で、「19歳10ヶ月9日」の乙黒拓斗が優勝。1974年の高田裕司の「20歳6ヶ月14日」の男子の最年少記録を44年ぶりに塗り替え、初の10代世界王者となった。

【11月26日】本協会臨時理事会で、組織改革の一環として、理事の定数を現在の25人以上、30人以内から5人削減することを決めた。来年6月から採用。

【12月30日】男子グレコローマンの全日本チームが東京・味の素トレーニングセンターで年越し合宿スタート。



▲乙黒拓斗が日本男子初の10代での世界王者へ

## 2019年

【1月10日】吉田沙保里選手が都内のホテルで引退会見。

【6月22日】本協会の理事会・評議員会で、福田富昭会長と高田裕司専務理事の再任を決定。ともに9期目。内閣府の指導により、議決権を持たない特定理事などは廃止。

【11月16～17日】女子ワールドカップが千葉・成田市体育館で行われ、日本は予選リーグを勝ち抜き、決勝で米国を7-3で下し、5大会連続11度目の優勝。



【12月3日】国際オリンピック委員会 (IOC) が2022年にセネガルで行われるユース・オリンピックで、レスリングは男子グレコローマンを実施せず、男子フリースタイル、女子、男女のビーチを実施することを発表。全競技を通じて初の男女同選手数のオリンピックとなる。

▲5大会連続11度目の優勝の日本チーム

【12月31日】3スタイルの年越し合宿がスタート。オリンピック代表に内定した6選手を含めた3スタイルの全日本トップ選手が集まり、1月2日まで汗を流した。

## 2020年

【2月20日】中国・武漢で発生した新型コロナウイルスが世界に広まり、3月末に予定されていた東京オリンピックのアジア予選が中国・西安からキルギス・ビシュケクへ変更。

【2月28日】キルギスでの新型コロナウイルス感染の悪化により、同所での開催を断念。開催地が宙へ浮く。国内でも、全国少年少女選抜選手権、全国高校選抜大会などの中止が決定。

【3月24日】国際オリンピック委員会（IOC）と日本国政府が、新型コロナウイルス感染の拡大のため、東京オリンピックの1年程度の延期を決定。緊急事態宣言の発令により、大会および各チームの練習中止が相次ぐ。

【7月2日】全日本女子チームが東京・味の素トレーニングセンターで約3ヶ月半ぶりに合宿スタート。6日には男子グレコローマンが続いたが、感染拡大の再拡大のため、以後の合宿は中止。

【7月15日】国際オリンピック委員会（IOC）が、2022年にセネガルで予定していたユース・オリンピックの2026年への延期を発表。

【10月9～11日】新潟・新潟市東総合スポーツセンターで、いったんは中止になった全国高校選抜大会が開催される。日本協会および傘下連盟の全国大会としては2月22～23日の全国少年少女選抜大会（東京）以来、約7か月半ぶりの大会開催。



▲約7ヶ月半ぶりの大会開催となった全国高校選抜大会

【10月13日】世界レスリング連盟（UWW）が、参加国が規定に満たすことを条件に、12月12～20日にセルビアで世界選手権の開催を発表。日本は参加を表明。

【10月21日】全日本女子チームが東京・味の素トレーニングセンターで約3ヶ月ぶりの合宿を実施。

【10月30日】12月にセルビア・ベオグラードで行われる世界選手権の派遣中止を決定。欧州で新型コロナウイルス感染の再拡大の兆しがあったため。同大会は、最終的に個人戦ワールドカップとして実施。

【12月9日】国際オリンピック委員会（IOC）理事会で、2024年パリ・オリンピックの出場選手数を男女とも5250人という史上初めて男女同数のオリンピックになることを明らかにした。レスリングは男子グレコローマン、男子フリースタイル、女子とも



▲感染予防対策に注意を払って練習する選手

6種目（階級）96選手が参加することになり、東京オリンピックの階級数と選手数を維持。アーティスティックスイミングと新体操が“女子の領域”を守ったことと引き換えに、レスリングが“男子両スタイルの領域”を守った形。

【12月17～20日】全日本選手権が東京・駒沢体育館で、無観客で開催される。参加する選手及び審判を対象に実施した新型コロナウイルスの臨床検査スマートアンプ（核酸増幅法）は、全員が陰性。感染防止対策が功を奏し、大会後も陽性発症者はいなかった。

## 2021年

【1月18日】本協会のオンライン臨時理事会で、不適切な会計処理があったとし、それに関する責任をとって高田裕司専務理事が進退を理事会に一任。

【1月27日】本協会のオンライン臨時理事会で、高田専務理事の副会長兼専務理事の役職を解く。

【3月12日】本協会のオンライン理事会で、空位だった専務理事の代行に常務理事の江藤正基氏の就任を決定。定款で20～25人と定められている理事数を23～28人にする変更を承認。

【4月8日】カザフスタンでのアジア選手権に出場予定だったオリンピック代表5選手を含む女子チームが、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者と疑われるケースが生じたため、出発予定日に渡航を中止。

【5月27～30日】明治杯全日本選抜選手権が東京・駒沢体育館で無観客で開催される。感染予防のため、オリンピック代表選手の紹介・壮行イベントなどもなし。

【6月10日】日本オリンピック委員会（JOC）が、本協会の不適切な会計処理に対し、「勸告」処分を決定。私的流用がないことは認められた。

【6月26日】本協会の理事会・評議員会で、福田富昭会長の再任と江藤正基専務理事代行の専務理事就任を決定。福田会長は10期目へ。1人だった女性理事が4人に増える。

【7月5日】日本オリンピック委員会（JOC）が、東京オリンピック開会式の日本選手団の旗手に須崎優衣選手を決定。レスリング界からは4人目。

【7月8日】東京オリンピック・パラリンピック組織委員会が、神奈川、千葉、埼玉の1都3県の競技を無観客で開催すると発表。レスリングの無観客開催が決まった。



▲無観客で実施された全日本選手権



▲全日本選手権に続いて無観客の全日本選抜選手権

【7月23日】東京オリンピックが開幕。開会式で須崎優衣選手が旗手を務める。

【8月1～7日】千葉・幕張メッセで東京オリンピック・レスリング競技が実施され、日本は「金5・銀1・銅1」を獲得。5階級制覇は1964年東京大会以来。

【10月1日】本協会の理事会で、福田富昭会長と江藤正基専務理事がそれぞれの役職を辞任。新会長に富山英明副会長、新専務理事に藤沢信雄副会長がそれぞれ就任した。



▲無観客で開催された東京オリンピック



▲8月4日／川井友香子優勝



▲8月5日／川井梨紗子優勝



▲8月6日／向田真優優勝



▲8月7日／乙黒拓斗優勝



▲8月7日／須崎優衣優勝